

2012年4月16日

学 長 殿

文学部長
林 義 勝

明治大学名誉教授推薦書

被推薦者名： 杉原 重夫
(2012年3月31日 文学部専任教授退職)

推薦理由：

杉原重夫先生は、1974年4月に本学文学部に専任教員として採用され、以来38年の永きにわたり本学の教育・研究に力を尽くされた。

先生の専門は自然地理学の特に地形学の分野であり、平野の地形形成史、火山灰層編年学、火山形成史という相互に密接な関連がある三つの研究領域に重点が置かれている。現在の地理学や考古学などでは、地層中の火山灰の分析によって地層が堆積した絶対年代を求めることが基本的な調査手法の一つとなっているが、先生が研究を開始した1960年代後半は、まだ火山灰のデータベースも無く、フィールドにおける試料採取や実験室での標準的な分析手法も確立されていなかった。約20年間におよぶ日本における火山灰層編年学の開拓と、その平野地形形成研究への応用において、杉原先生は常に重要な位置で研究領域全体の発展に大きく貢献してきた。さらに1990年代以降は、火山灰の源である火山そのものを研究対象に加え、伊豆八丈島の火山形成史の研究を大きく進展させた。一方で、火山のマグマの珪酸分が固結しガラス状になった黒耀石にも深い関心を寄せ、考古学の遺跡調査で採取される石器材料の原産地を特定するための理化学的な研究も行ってきた。このような研究は考古学や文化財研究ともリンクするため、「環境変遷史と人類活動に関する学際的研究」という学術フロンティア推進事業実現の中心的役割をも果たした。

学内においては文学部教務主任、史学地理学科長等を歴任し、全学的にはアカデミーコモンにおいて新しい時代を迎えた明治大学博物館の二代目の館長としても活躍した。また、学外においては、日本地理学会や日本第四紀学会の役員として学会に貢献したほか、いくつかの市町村史の編纂委員として地域の文化事業にも参画している。

以上のように、杉原重夫先生は専門とする地理学の領域における豊富かつ優れた学術的業績を達成し、学内外の教育研究にも多大な貢献をしている。よって、ここに本学名誉教授としてふさわしいと判断し推薦するものである。

以上

ー添付書類ー

- 1 履歴書
- 2 業績書